

平成20年度 尊厳擁護専門委員会 開催報告

【活動実績と今後の課題等について】

1 開催状況

	開催日	内 容
第1回	6 / 30 (月)	・平成19年度における事故、苦情相談、介護サービス相談員派遣事業に関する報告について ・北九州八幡東病院における虐待に関するその後の取り組み状況について ・虐待(疑)に関する事実確認の調査結果について ・(仮称)新北九州市高齢者支援計画の策定について
第2回	8 / 4 (月)	・第二次北九州市高齢者支援計画の策定について ・虐待(疑)に関する事実確認の調査結果について ・事故報告について
第3回	10 / 30 (木)	・第二次北九州市高齢者支援計画策定に関する尊厳擁護専門委員会における検討結果について(案) ・虐待(疑)に関する事実確認の調査結果について
第4回	12 / 9 (火)	・平成20年度上半期における事故、苦情相談、介護サービス相談員派遣事業に関する報告について ・虐待(疑)に関する事実確認の調査結果について

2 主な活動実績

第1回～第3回の専門委員会については、報告済みであるため、今回は、第4回の報告を行うもの。

(1)平成20年度上半期事故報告について

ア 上半期事故報告件数は、483件となっており、前年度の437件と比べて微増傾向にある。また、月別では今年度は7月、前年度は8月が多くなっている。

種類別件数は、「転倒」「転落」「その他けが」が425件で、前年度に引き続き全体の9割を占めている。また、誤嚥は、21件で、事故再発防止に向けた「参考となる取り組み事例」を全事業所に送付し、事故防止に取り組んだ結果、19年度は対前年度の半分以上(年間で21件)に減少していたが、今年度は再び増加している。

イ 死亡事故は、前年度年間9件に対して5件となっており、すべて誤嚥によるものである。

これに対して、委員から、

事故の傾向を知る手法として、サービス種類別の1人当たりの事故発生率を算出するようにしたらどうか。

誤嚥事故は死亡につながるため、再発防止の取り組みが重要である。その他の事故を含め、事故報告書の様式の変更など、事故の再発防止のための要因分析を行いやすくする方策を検討していく必要がある。

などの意見があった。

(2)平成20年度上半期苦情・相談について

ア 今年度上半期の苦情・相談件数については、相談件数27,447件、苦情件数3,738件である。月別では、保険料の当初納入通知書の発送時期である6月が例年突出して多

い。相談内容別割合では、保険料、認定審査に関するものがほぼ半数(約 53%)を占めている。

イ 前年度上半期と比較した場合、相談件数については約 6,500 件(約 19%)減少し、苦情についてはほぼ同数となっている。減少理由については、平成 18 年度に実施された介護保険制度の改正内容の周知が浸透してきたことによるものと考えている。

これに対して、委員から、
苦情・相談の分類区分の仕方をよりわかりやすくするなど工夫をしてほしい。
などの意見があった。

(3)平成 20 年度上半期介護サービス相談員派遣事業について

ア 派遣事業所数は、128 事業所であり、前年度の 106 事業所から 22 事業所増加している。また、今年度の相談員は、これまでの市社会福祉協議会の職員等に加え、新たに市民一般公募による募集を行い、養成研修修了者 72 名を加え、計 139 人体制で行っている。

これに対して、委員から、
相談員が利用者から受けた相談内容のうち、事業所への要望に関するものについては、事業所へ積極的に伝え、今後ともサービスの向上に努めてほしい。
などの意見があった。

(4)虐待に関する事実確認について

養介護施設従事者による高齢者虐待(疑)に関する事実確認のための調査結果を 1 件報告した。調査の結果、虐待の事実を確認できなかった。

3 今後の課題・予定

(1)事故防止の取り組みについて

事故報告書の様式変更など、再発防止のための必要な要因分析ができる仕組みづくりの検討を行う。

(2)高齢者虐待の防止のための取り組みについて

虐待の事実確認の調査を効果的に行うため、通報受付時のマニュアル化など平準化に取り組む。